

トウダイグサ科 アカメガシワ属

# アカメガシワ (赤芽柏)

*Mallotus japonicus* (L.f.) Mull.Arg.

## 自生環境

林縁、道ばた など

## 原産地

日本在来

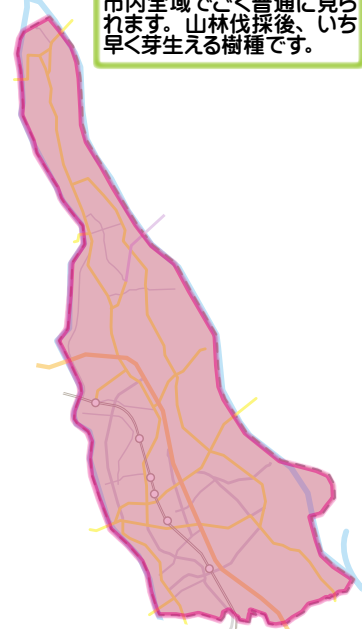
## 生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域の樹木として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

## 市内の分布状況

市内全域でごく普通に見られます。山林伐採後、いち早く芽生える樹種です。



## 特徴

- ☆ 林の縁や道ばたなど、明るい場所にたくさん生え、成長の早い落葉高木です。伐採や山火事、土砂災害などでその場の生態系がリセットされると、真っ先に芽生えるパイオニア植物です。
- ☆ 雌雄別株ですが、花や果実の無い段階での識別は困難を極めます。雄株・雌株とも6~7月ごろに枝先に多数の小さな花を咲かせます。花びらはありませんが、雄花はポンポン状になった多数の雄しべが、雌花は3本の花柱が、よく目立ちます。果実はトゲトゲした感じで、成熟すると割れて中から真っ黒いタネが3~4個顔を出します。
- ☆ 冬芽は裸芽と呼ばれる形態です。来年の芽はほぼむき出しの状態です。金色の短い毛に覆われます。展開したばかりの新しい葉は赤っぽい色でよく目立ち、名前の赤芽はそこから来ています。

## アリに守ってもらう

アカメガシワの葉の根もとをよく見ると、小さな茶色い斑点が2個ついています。これは花外蜜腺という蜜を分泌する器官で、ここにはアリさんがよくやってきます。アリさんは体こそ小さいですが、多くの虫さんが嫌がる存在。たかられたらひとたまりもないからです。そのためアカメガシワはアリさんに蜜をプレゼントする代わりに、枝葉を歩いてもらって外敵から身を守っていると考えられます。



花びらは無く、  
たくさんの雄しべが  
ポンポンのようにつく

がく

雄株



花びらは無く、  
花柱3本が目立つ

雌株



果実は熟すと3つに割れて  
黒いタネが顔を出す

芽吹いた  
ばかりの葉は  
赤い色

冬芽。  
来年用の  
葉はほぼ  
むき出し  
の状態  
で冬を越す



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

